

所属 高知東高校

氏名 岡崎かおり

R G SH4

1 研究の背景

3 段階の習熟度別クラス編成による 1 年生 a (33 名) の英語が比較的得意なクラスが対象。授業は始業のチャイムが鳴り終わると同時に始めることができる状態にある。英語への関心が決して高いとはいえないが、わかるようになりたいという生徒の願望は感じられる。授業の中では、学習課題の背景となる出来事の説明や、文法事項の説明になると生徒たちの集中力が失われていくのがわかる。また、音読を軽視する傾向があり、全体的に読みが足りていない。

2 リサーチクエスション

本文の意味を理解し、正確な発音で、ネイティブのスピードに近い速度で、本文をすらすらと全員が声に出して読むことができるようにすること

3 予備調査

生徒はそれまでの学習で、音読の重要性についてはあまり認識していないようだった。言語を本当に理解して発音できる状態にいる生徒は少なく、ほとんどが読むことへの労力を惜しんでいるような状態だった。

4 仮説の設定

仮説 1 個々に読みを録音することを前提に音読練習をさせれば、全員声を出して読めるのではないかな。

仮説 2 本文の音読テストを行い、すらすらと読めるようになるまで再テストを繰り返せば、内容理解もできてくるのではないかな。

仮説 3 本文を区切って、読みのポイントになる単語を選び出し、個々に音読すれば生徒は真剣に読むのではないかな。

5 . 計画の実践

あ) テープまたは CD の音声の後について読む。(リピーティング)

い) 制限時間内に何回本文を読めるか測定。(速度の維持)

う) ペアで音読練習。チェック項目を設け、注意深く読み、聴く態度を保たせる。

え) 個々の読みを録音する。

お) 進出語の読みを徹底させてから、本文読みに移る。

か) 本文を 5～7 文で区切り、個々の読む分量を減らす。

き) 読みの速度の測定と単語の読みの正確さをチェックする。

く) シャドウイング導入。LL 教室の利用。

け) 翻訳練習、同時通訳練習を取り入れる。

こ) 音読コンテストシート利用。読みの分量、発音に注意すべき単語を 3 つに指定する。

さ)ディクテーション活動を仕上げ段階で取り入れる。音と意味と綴りの一体化を目指す。

6. 実践の結果

12月の後期中間試験後、アンケート調査で「授業中の活動の中で単語や文を覚えるのに役立っている活動は何か」と問いかけたところ、ほとんどの生徒が音読とディクテーション活動を挙げていた。『音読は何度も気軽に取り組める』ことと、『ディクテーションは自分がどれだけ内容を理解しているのか、確かめることができる』という理由が挙がっていた。『シャドウイングは音についていけず、頭が混乱する』という理由が目立ち、活動に消極的だった。

また『家庭学習はあまりしていない』と答えた生徒がほぼ大半だったが、『単語や文章を覚えるには音読しながら書くことが一番効果的で、試験の得点にも結びついた』と答えた者が多かった。

7. 結果の検証

『授業中に生徒が英文を声を出して読まないのはどうしてだろう?』と疑問に思い、実際に問題視して取り組んだのは今回が初めてである。これまでは生徒のやる気がないからだとか、英語が苦手な生徒が多いせいだ、などと自分に思いついてしまっていたが、実は私自身の音読に関する認識の甘さが招いた事態であったと確信した。

今回の研修で英語力向上のための活動を経験した後、私の授業がこれまでの文法重視から音重視に大きく変化したと思う。音読の重要性を、身をもって経験したことは生徒に伝え易かったし、生徒の状態も音読活動の段階によって把握し易かった。言語活動のヴァリエーションもずいぶん増えたので、生徒の実態を注意深く観察しながら、活動に変化をつける工夫ができるようになった。

8. 成果と今後の課題

音読活動について生徒の書いたコメントを紹介する。『読むのが苦手だったけど、何回も何回も繰り返して読みを教えてくださいましたので、ちゃんと読めるようになったのがとてもよかった。』『読むのが楽しかった』『英文を読むことで、内容がわかり易くなってよかった。』『音読テストをしたことで単語の読み方をよく知ることができた。』『読みはうまくなった気がします。』

これらのコメントは、音読活動に積極的かつ学習意欲の高かった生徒のもののみでなく、あまり英語に興味がなかったけれど読むことで英語学習に自信がついた生徒のものも多い。こういった生徒たちの学習意欲が、彼らの満足のいく結果となって現れるためには、また生徒自身が達成感を得られるようにするためには、言語活動の多様性とそれぞれに適切な評価法が欠かせない。私自身が英語学習の中で、もっと多くの活動を体験することが必要だと思う。

今後は『音読しながら書く』活動を取り入れたい。語彙を増やし、文法や内容を定着させるために、私自身も実践していきたい。

参考文献

佐野正之著 アクションリサーチのすすめ - 新しい英語授業研究 大修館書店

金谷 憲著 英語授業改善のための処方箋―マクロに考えミクロに対処する 大修館書店

若林俊輔・根岸雅史著 無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る 大修館書店

授業に役立つ教科別厳選リンク集 <http://www.teachers-net.com/>